

未来につなげる生き方を考える道徳教育の構想  
～教員養成における総合的な学習の時間の単元作成を通して～

広中忠昭（麗澤大学）

### 1. 本テーマ設定について

本テーマは教員養成段階において道徳教育を支える資質・能力の向上に係るものである。道徳は教科化により授業の量的確保は飛躍的に進んだが、質的向上には課題もある。特に「道徳的価値の理解を自己の生き方に結びつけること」に難しさを感じることも多い。

また、「行動・習慣」の扱いはタブーとされる部分も多く、「積極的に社会に参画しようとする態度」の育成に課題があると考えられる。一方、「総合的な学習の時間」の目標は「探究的な見方・考え方を働かせ横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」とし3つの柱を示している。

我が国の道徳教育は全面主義教育と特設道徳を併用している。総合的な学習の時間は、今回一層「探究的な学習過程の重視」と「自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成」を求めている。大会テーマにある「未来につなげる生き方を考える資質・能力の育成」は、総合的な学習の時間の目標そのものであるとも言える。こうした理解の上で、道徳教育を下支えするという視点から教員養成における「総合的な学習の時間の指導の在り方」について考えていくこととした。

### 2. 教員養成に当たり大切にしたいこと

道徳科で現代的課題など多様な道徳的問題を含む内容を扱う場合、身近でない課題について主体的に考えさせることが難しいという声も多い。教材で他国の紛争や難民問題等を扱っても自分事として関心をもつ子供は多くない。それは、教師にとっても同様である。世界的なパンデミックが続く中、異なる他者と協働して克服する道を探ることが求められているが、世界は多様な世界観で分断されている現実がある。子供たちと「未来につなげる生き方」をを考えていくためには、教師自身が「自分たちの暮らす世界をどう見るか」、「世界を私たちの現実生活とどうつなげて考えるか」という見方・考え方を身に付けていくことが重要と考える。総合的な学習の時間は生活基盤である「身近な社会、身近な生活」という人間生活から課題を設定し、探究的に解決を図る「地域に開かれた教育課程」の実現を目指すものであり、教員養成段階でこうした見方・考え方を育成する格好の機会であると捉えた。

### 3. 単元計画作成のプロセスと具体

学生にとって総合的な学習の経験は十分ではない。学級活動や行事の準備、補習学習などに振り替えられたり、体験したことを記憶しているだけのことも多い。そこで講義前半は、総合的な学習の時間の目標や内容、探究のプロセスについての基本的理解を進め、マッピングなど探究的な学習のテーマ設定に必要な手法などを身につけるようにした。次に、探究的な学習過程を体験する学習として、「コロナ禍における学校の危機管理」をテーマに「児童・生徒の安全と学習の保証」をどのように実現すればよいかという課題を設け、個別に「情報

収集」、「整理・分析」を行い、小グループで話し合う演習を取り入れた。さらに、単元計画の作成に当たってはスモールステップで「課題設定」「児童・生徒の主体的・対話的で深い学び」そして「育成を目指す資質・能力」をキーワードとして考えさせていった。

とりわけ「探究課題の設定」に至る体験こそ教員養成段階で一番大切なことと考え、身近な生活における自分（学生一人一人）の課題意識を大切にし、以下の3点に留意した。

- ①その課題を解決することの社会的必要性
- ②自分（子供）たちが取り組むことの社会的価値
- ③課題に取り組むことの自分たちの成長にとっての意義

総合的な学習では課題に対する探究活動を通して身近な「人・社会・自然」との関りの中で自己の生き方を考えることが大切である。学生たちは自分の住んでいる地域と向き合う際、自分を社会との関わりで考えるという社会参画の意識を持てるようにしたのである。

こうして一人一人が「地域社会の中の自分」を起点して地域の課題を現代的課題や伝統や文化の課題などに結びつけ、独自の単元を構想していくようにしたのである。また、育成を目指す「資質・能力」の柱の1つである「学びに向かう力、人間性等」については、多様な他者との主体的・協働的な学びによって、「自己の成長の自覚」や「互いのよさを生かしながら積極的に社会参画しようとする態度の育成」も意識するように促した。

このような学びの過程を踏み作成した学生たちの単元計画の一部を紹介したい。

・「わきあいあいとした町作り」（環境美化の視点で住みよい町作りを考える）

私たちの〇〇町を観察してみよう・よりよい町作りをするには・実際に活動してみよう

・「私たちの〇〇、私たちの日本」（地域から多様性を認める共生社会の実現を目指す）

市内に住む外国人のことを知ろう・問題を想像し解決策を探ろう・日本マスターになろう

・「〇〇の人口減少を食い止める！！」（郷土への愛着を高め、社会参画の態度を養う）

〇〇はなぜ人口が減っているのか・今の〇〇はどうなっている・どうしたら打破できる！

・「長い人生の中で安心・安全に暮らすために」（人生100年時代の生き方を考える）

お年寄りの困っていることは何だろう・自分なりの100年計画を作成しよう

・「お祭りを通して地域を活性化しよう」（地域の伝統と文化の継承、未来の担い手として）

祭りについて知っていることと知らないこと・インタビューをしてみよう・大事な伝統の

祭り宣伝隊になろう

#### 4. まとめ

道徳科では「考え、議論する」道徳への質的転換に向けて問題解決的な学習が広く行われるようになってきている。総合的な学習の時間の目標にも「よりよく課題を解決し」とあるが、「自分たちの暮らす身近な世界」から価値ある課題を見つけ、探究的に解決していく単元を構想することで、学生一人一人が「自分はその世界をどのように見て、どのように行動すればよいのか」ということについて考えることの大切さを学ぶことができた。

教員養成段階で学生一人一人が身近な「人・社会・自然」との関りにおいて「自己の生き方」について考えることのよさや大切さを実感的に理解することは、学生自身の「未来につなげる生き方を考える資質・能力」を高めることに役立つとともに、大会テーマの実現を下支えするものになるのではないだろうか。

2021(令和3)年度秋季大会  
日本道德教育学会  
第98回大会

大会テーマ

未来につながる道德教育

～発達段階を踏まえた道德教育の実践と連携の充実～

2021(令和3)年11月7日(日)

札幌国際大学

自由研究発表 第4分科会資料より(p66-67)